

上越市議会 各層との意見交換会 開催記録

移住サポート団体 × 市議会



【日時】

- ①平成29年6月16日(金)午後3時30分～5時
- ②平成29年6月19日(月)午後1時30分～3時30分
- ③平成29年6月19日(月)午後6時30分～8時30分
- ④平成29年6月20日(火)午後1時30分～3時30分

【会場】

- ①わっしょいハウス(安塚区朴の木361)
- ②地すべり資料館(板倉区猿供養寺401-1)
- ③いなか体験ハウス(柿崎区下牧566-1)
- ④大島旭農村環境改善センター(大島区田麦1078)

移住サポート団体 × 市議会

- 日時
- ①平成29年6月16日(金)午後3時30分～5時
 - ②平成29年6月19日(月)午後1時30分～3時30分
 - ③平成29年6月19日(月)午後6時30分～8時30分
 - ④平成29年6月20日(火)午後1時30分～3時30分

- 場所
- ①わっしょいハウス(安塚区朴の木361)
 - ②地すべり資料館(板倉区猿供養寺401-1)
 - ③いなか体験ハウス(柿崎区下牧566-1)
 - ④大島旭農村環境改善センター(大島区田麦1078)

- 概要
- 【①～④共通】
各団体の取組概要の説明
移住体験施設等の見学
意見交換

意見・質問	
1	中山間部の移住体験ハウスを1号館として、中心市街地や海岸部に2号館3号館と増やしたい。
2	せっかく移住しても数年でいなくなるケースもある。これらの失敗で空き家を購入されることに抵抗感を持つ地元住民も多い。移住者受入れに積極的になれない原因の一つだ。
3	耐震化で休眠中の田舎屋と、てしごと館を何とか使えるようにしてほしい。使えれば都会からやって来る人たちに、音楽イベントなどや宿泊などに使いたい。何とか活用できる道筋をつけて頂きたい。
4	資金力が無いので、国や県、市の制度も含めて支援してほしい。
5	インターネットを活用してPRしているが、行政には、特に首都圏に向けてPRに力を入れてほしい。
6	市が大町に整備したシェアハウスについて、学生は定着してくれないので、学生ではなく移住者向けのハウスになってくれればいいと思う。
7	(移住希望者に対する)上越の何が好きかという問いに、「雪」が好きと答える人が多い。また、上越に知り合いがいるという人も多い。移住した場合、人間関係はとても大切で、人との繋がりがあれば、離れにくい。
8	せっかく移住して来ても2,3年で家を置いて出て行ってしまい、また空き家となってしまうと管理することもできない。
9	移住者が離れてしまう原因には、地域とのコミュニケーション不足がある。この反省から、サポートセンターの必要性を感じ、活動している。
10	移住者が来てくれることを願っている。移住者のメッセージを外に発信してほしい。
11	田舎暮らしにあこがれて65歳で仕事を辞めてこの地に住み着いた。ここでは65歳も年寄り扱いはされない、老人も輝ける地域だとおもう。今では古民家や古道具の方が自分に向かって集まってくる。
12	移住者にとって、お試して宿泊したときに、「この人達がいるところなら安心」と思ってもらえる安心感が大切だ。
13	移住したら、積極的に地域に入ることが大切だ。前職で培った技術を使って地域に貢献している。
14	移住する人もあれば、週末だけの別荘使いの人もある。広い意味で空き家を使うということを考える必要がある。
15	横浜の工場で働いていたが、昔からやりたかった農業と田舎暮らしを実現した。以前は田舎では暮らしが立たないという事で、妻の理解が得られなかった。子育ての問題が深刻化して、妻も都会の学校では子育てが難しいという悩みの中で、真剣に移住を考えた。子育てには素晴らしい環境だと確信している。
16	農業の移住は、まずは営農支援がしっかりとしていないと成り立たない。
17	高校生の転校はとても難しく、一校ずつしか転入相談ができない。その高校で断られてからしか、次の高校へ連絡することができなく、自分で直接交渉もできない。このシステムを変えるべきだ。

18	基本的に自給自足が土台にある。若い人は子育てもあるので、季節的な就労をプラスして何とか生きていけるという状況を考える。年金がもらえる年数だけは働いて、その土台を作ってから移住をすることを勧めている。
19	生活費は安い。食べ物は安くおいしい。今の若い人は夢よりも安定感を求める傾向にある。子供に将来の職業を聞くと、会社員と答える時代になった。(安定志向)こうした野心の無い人に何をアピールしたら田舎暮らしを求めてもらえるのか。
20	「田舎暮らしの本」があるが、こうした本に宣伝を入れると大変効果がある。上越市が努力すべきはこうしたアピールの研究であって、会議をいくら重ねても行動しなくては意味がないと感じる。
21	最初は「地域おこし協力隊」に応募しようと思った。仲間もいて、たいへん良い環境だと思う。ただし家族持ちが協力隊になるには子供の学校などの影響で無理がある。協力隊の要件を緩和して欲しい。
22	もっと地元の不動産会社を活用してほしい。このあたりでの空き家への移住は、全部マイプラン(十日町市)が仲介してくれた。上越市にも中山間地の空き家専門の不動産業者が必要だ。
23	転入のメリットは何かをもっと明確に発信するべきだ。
24	体験宿泊が充実しないと、急に人は決められない。ある意味、市が体験宿泊の費用を負担してでも移住促進するべきだと思う。
25	小規模農家の育成が必要なのに、国の支援は大規模農家向けばかりだ。農業者になるための要件が高すぎる。中山間地域では、大規模にはできないし、農業者以外は制度を利用できない。
26	街中にゲストハウスを準備して、山村から泊まりに行けるような工夫が欲しい。
27	寺野小学校をきちんと活用してほしい。廃校の有効活用策を考えてほしい。
28	農業が好きな人に移住してほしい、「いなか体験ハウス」を活用しながら、団体のメンバーも全面的に移住者へのサポートを実施している。
29	団体の「目標」は、地域に移住してもらうこと。そのためには、仕事(農業)の魅力発信、農産物(米、酒、干し柿、長人参、黒大根)が売れることを考えて活動している。
30	農家は書類手続きが苦手な人が多く、その苦手な部分をマネジメント組織に補ってもらっている。
31	仲間がいることが大切であり、地元の農家の皆さんの支援、バックアップがある。
32	妻のところへ婿入りした。妻の愛する地元を知ろうと結婚前に通っているうちに、義父母のそばうち、いわな養殖に感動、地域の人の温かさに触れた。
33	今後は、移住体験ハウスの改修を計画している。これまでは農業従事者の移住が中心だったが、農業以外での移住の可能性も模索している。
34	空き家を購入し、秋から農家民宿を開業したい。農業体験や田舎体験をしてもらいたい。
35	地域の暮らしに馴染めず帰ってしまう例もある。地元の人にはよそ者扱いするなど言っている。
36	不動産業者の空き家の売り方について、売りっ放しでなく、ひと言町内に言ってくれれば助かる。
37	決して暮らしやすい場所ではない。簡単に来てもらえる場所でもない。暮らしの大変な部分も見てもらわなければならない。
38	良い面も悪い面も全て情報発信することが大切。
39	体験で来た人は、一緒に作業していると本気度が分かる。来る気のある人は、手の足りないところに自分から動くが、そうでない人はボーっとしてしまう。
40	田舎暮らしに向いているかどうか、短期間では分からない。長い時間をかけて地域と関わってもらい、腰を据えてもらいたい。
41	山が荒れると、水がだめになる。平場の人も意識してもらいたい。
42	来る人来る人がおもしろいものを見つけて、そこを支援していく。いくつか組み合わせるとおもしろいものになっていく。定住にも繋がっていく。
43	農業をしながら暮らしていける人を増やす。小さな土地でもやっていく人を増やしていく。
44	新しく来た人にバトンタッチする仕組みも作っていく必要がある。継いでもらう仕組みを。